

4月1日から、個室使用料を変更します

4月1日(月)から、本館・緩和ケア病棟の個室使用料を左の表のとおり変更します。

4町(川西町、三宅町、田原本町、広陵町)に住んでいる人が利用しやすいよう優遇しています。

●個室使用料は1日(午前0時～翌日午前0時)当たりの料金です。この間は何時に入室または退室しても1日分の料金となります。町外の方は別料金となります。

特別室使用料

部屋の種類	料金	
特室	11,030 円	
1 人室	7,350 円	
2 人室	1 人使用	3,680 円
	2 人使用	1,840 円

緩和ケア病棟個室など使用料

部屋の種類	料金
特室	8,820 円
有料個室	5,880 円
家族室 (1人当たり)	※ 1,470 円

※1人当たりの料金となり、1日につき5,250円を限度とします。

がん患者・家族が語り合える場

ほっとサロン「飛鳥」のご案内

がん患者さんや家族の人が、体験した人でなければ分からない「辛さ」や「生活上の工夫」などを語り合える場です。

- がん患者さんや家族の人、医療者、勉強中の人など誰でも参加できます。
- 国保中央病院に、通院や入院したことがなくても参加できます。

日時 毎月第2水曜日午後1時～3時

場所 緩和ケアホーム「飛鳥」

ASUKA ホール



新しく参加した人に、ほっとサロン「飛鳥」の成り立ちを話す利用者の様子

町 長 日 記

三回忌法要

Vol. 38

悪夢のような東日本大震災から2年がたった。亡くなられた方にとっては三回忌となる。未曾有の大震災と、その後の津波が人や車や街、すべてを飲み込み1万8千人の命が一瞬にして奪われた。人間の無力さを思い知らされた、あの恐怖は一生忘れることはない。私は昨年、二度東北地方を訪れた。一度は宮城県、一度は岩手県だった。被災地視察が主目的ではなかったが、被災地にも足を運ぶことができた。しかし現地で見えた光景は、がれきこそ片付けられていたが復興どころか復旧すらまともに進んでいなかった。震災から2年、あの日のまま時間が止まってしまったようだった。

中でも目を覆いたくなかったのは宮城県南三陸町だった。南三陸町は宮城県の北東部に位置し、東は太平洋に面し、三方を山に囲まれている。普段は海山が一体となった、豊かな自然環境を形成していたのだろうが、それが災いした。海から押し寄せた津波が山で遮られ、今度は引き波となって全ての物体を海へと連れ去ってしまった。私たちが峠の上で見た光景は、見渡す限り視線を遮る物は何もなかった。

藤末希さんが防災無線で最後まで避難を呼びかけ、犠牲になった。私も骨組みだけになった防災対策庁舎に行き、手を合わせてきた。そのご両親が、薬師寺で営まれた東日本大震災の三回忌法要に参列された。お父さんは手紙の朗読の中で、高さ12mの津波が到達するまで「早く高台に逃げてください」と避難を呼びかけた娘に「あの大地震の揺れの中よく声を出し、放送し続けましたね。怖かったろう、逃げたかつたらう。それでも冷静に避難を呼びかけ続けたこと、本当にご苦労さまでした」とねぎらった。未希さんの遺体が自宅に戻った際に家の前に虹が現れ、これまで一度も見なかった虹が庭にやってきたエピソードも紹介され「私たちは未希が姿を変えて現れてくれたと感じている。それでもいいから、ただ、あなたに会いたい」と肩を震わせた。



田原本町長

寺田 典弘

私たちは決して遠藤未希さんのことを忘れまい。